

渡良瀬川流域の地域建設業の現在と未来を考える座談会

■ 渡良瀬川河川事務所では、今年度から渡良瀬川流域における地域建設業の活性化を目標とした「渡良瀬川流域における地域建設業の現在と未来を考える協働プロジェクト」に着手。

■ 当該プロジェクトの一環として、当事務所管内で工事を担当する若手技術者による座談会を開催。

渡良瀬川流域の地域建設業の現在と未来を考える座談会 ～見せる&魅せる建設業に向けて～
2019年1月17日(木) 於；渡良瀬川河川事務所

【左側から五十音順、敬称略】

岩見 弘平(石川建設株)
H30境野町地先堤防法面補修
他工事 現場代理人

菊地 敦弥(中村土建株)
H29久蔵口山腹基礎工事
現場代理人

黒岩 真理
国土交通省 渡良瀬川河川事務所
大間々砂防出張所 技術係長

篠山 健二
国土交通省 渡良瀬川河川事務所
工務課 技官

田中 翔太(大協建設株)
H30桐生管内維持管理工事
現場代理人

戸室 美誉子(株戸室組)
H29秋山川上流左岸伊保内地先
築堤護岸工事 担当技術者

中島 真理(河本工業株)
H29秋山川右岸大古屋地先護岸
工事 担当技術者



- 子供の学校行事等による休暇取得は、上司、後輩のご協力の問題ないが、職場環境に依るところが大きい。
- 年配技術者が多く、若手が少ないが、技術の伝承も重要。
- 若い世代には、自分達の前の世代の技術と共に自分達の世代の技術の両方を伝えたい。
- 情報通信技術(ICT)は積極的に活用したい。
- 最終的には会社、現場等の人間関係が大切。下請け業者さんから、また弊社にお願いしたいと言っていたできるように取り組みたい。

- 週休二日の取り組みを実施しているが、給与体系により収入減となる方もいらっしゃることは課題。
- 「きつい、汚い、危険」の3Kから「希望、給与、休暇」の3Kへのイメージ転換が必要。
- 情報通信技術(ICT)活用で人手不足に対処する等、新技術を積極的に取り入れたい。
- 今年度、弊社に女性技術者が入社された。本日の女性技術者の皆さんの意見も参考にして、女性の視点からの建設現場のあり方を考えてみたい。
- 幅広い人間関係を積極的に構築したい。

- 育児の為、宿泊を伴う仕事、危機管理対応等、十分に対応できないのが現状。
- 家族の支援、職場、建設現場における良好な人間関係の構築が不可欠。
- 子育てのための支援制度は多数あるが、フィードバック体制が欲しい。
- 一人で仕事はできない。発注者、受注者間のコミュニケーション、感謝の気持ちが大切。
- 10～20年後の組織、業務内容を見据えて仕事に接したい。
- 現在、多くの方々からの支援によって仕事をさせていただいているので、将来はその恩返しの意味も含めて貢献したい。

- 仕事とプライベートとの両立するためには職場環境、人間関係が大切。
- 若手技術者が少ないことにより、業務分担への影響がある。
- 情報通信技術(ICT)の進歩は早く、自発的な情報収集が必要。
- 自分が上司となった時には、風通しの良い職場にしたい。
- 今回の座談会のように直接お話が聞けることは、学ぶ点が多かった。

- 建設業における問題点は、業界に対する、長時間労働、低い給与水準、肉体的・精神的厳しさ等のイメージが影響しているのではないかと。
- 弊社でも新入社員の退社事例もあり、イメージを良くすべきと考えている。
- 建設業における諸課題に対して、自分自身がどのように考え、何をなすべきか等、現時点では、整理できていない。
- 現在、仕事が楽しく感じているので、引き続き建設業に従事したい。

- 現在、子育て中であるが、休暇取得できる環境に不安がある。
- 親は代わりは利かないので、休む必要がある場合は休める職場が必要。
- 建設業で女性が活躍できる場をアピールすることは、会社だけでなく業界全体のイメージアップに寄与する。
- 現在は、現場を支援する立場であるが、現場の良いところを見つけ出し、引き出せるような支援をしたい。
- 今後、いろいろ勉強していく中で、自分ができることを発見できるよう、現在の仕事を続けていきたい。

- 家事、子育て、仕事の両立は難しいが、会社だけでなく、社会全体が両立できる方向に進むことを期待している。
- 現場で分からないことが多いが、周囲が忙しい中では尋ねるのも兼ねてしまう。
- 女性は男性に比べて体力がないのではなく、チカラの入れ方が重要ではないか。
- 建設業に就いていることが「凄」と言われるのは嬉しいこともあるが、働いている姿を見てもらうことで、女性も普通に働ける職場と思ってもらえるようにしたい。
- 建設重機の運転資格をとりたい。